

本書は、名言、格言、金言、座右の銘といった枠には収まりきれない、ファンキーな放言、クールな失言、シニカルな暴言、シュールな迷言を収載したアフォリズム (aphorism) 集です。「アフォリズム」とは、教訓とすべき箴言 (諺) であり、ものごとの真理を簡潔に表現した警句です。それゆえ、ときに寸鉄人を刺す辛辣な至言寸言を含みます。

小著がいわゆる名言集と一線を画するのは、引用句辞典からごっそり抜き写しするのではなく、編者本人が渉猟した名言や箴言を日本人の手によるものも含め、広く収載しているところです。また、暴言や放言も数多く載せているという点においても、他の類書にはないものでしょう。

英米文化を理解するうえで欠かせないのは、聖書、ギリシャ神話、シェイクスピア、マザーグースなどに由来する知恵です。近現代の著名人が残した名言名句ですら、それらを下敷きに行っていることが多いのです。時代を超えて受け継がれている言葉は、知恵の精髓であり、洋の東西を問わず現代を生きるわたしたちの行動指針です。

とはいえ、それら名言にはどことなく生真面目で、説教くさい感じが漂っています。じっさい古今東西の名言をあつめた本をひもといてみると、教訓めいた言葉や、しかめっ面をした表現によく出くわします。その趣たるや、まるで道徳おじさんが胡坐 (ご) をかいて腕ぐみをしているかのようです。

また、内容はというと、年輪を重ね、風雪に耐え、多くの心情を通過してきただけあって、処世訓としてそのまま役立つものもあるいっぱい、そのあまりに経験主義的、優等生的、威圧的なもの言い、ときとしてソップを向きたくなるものもあります。

いっぽう暴言は、反道徳的な言葉でもって常識をくつがえすことをみずからの役割と心得ているものの、手前勝手な論理と投げやりな態度はやはり不穏当としかいいようがなく、幅広い大衆の支持をあつめられないでいます。あたかもその風情たるや、ヘソ曲がりの唐変木が不貞腐れているといったところです。

しかし、いうまでもなく、「驕 (おご) れる者は久しからず」(Pride will have a fall.) です (驕れぬ者も久しからず、でもあるのですが)。暴言といえども、「昨日の非常識は明日の常識」が合言葉になっているこんにち、近い将来、名言に“昇格”する可能性がないわけではありません。いまは聞く者の神経を逆撫でるだけの軽口がしばらくの時を経て含蓄のある教訓に変わるかもしれず、皮肉をまとただけの嫌味な陰口が次代を担う珠玉の名句になるかもしれません。

本書には、そんなアフォリズムが438取められています。たとえばあなたがヘソ曲がりであっても、あなたの支えになってくれるアフォリズムが二つや三つはあるはず。「思考の糧」(food for thought) として、ぜひお役立てください。

最後になりますが、人生の折々に数々のアフォリズムを小生に授けてくださった熊谷雅弘氏、英文の校閲をしてくださったキャサリン・クラフト (Kathryn A. Craft) さん、古文の知識をご教示くださった宮崎昌喜先生、瀟洒な本文イラストを描いてくださった杉本綾子さんに感謝いたします。

また、本書の執筆を熱心にすすめてくださったプレイスの山内昭夫社長に深謝の言葉を捧げます。数多くのアフォリズムに出会うことで、私自身、自分の価値観に揺さぶりをかけることができました。

2020年11月

里中哲彦 (さとなか・てつひこ)